

『週刊現代』をはじめとする一切の組織破壊を許さず、 断固闘うための声明

7月15日から9週にわたり『週刊現代』によって「テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実」なる記事によって、JR総連・東労組の組織破壊を狙ったキャンペーンが行われている。その内容はデッチ上げそのもので、悪質極まりない限りである。

JR連合・JR東海ユニオンは、このデマキャンペーンと同一歩調をとり、『週刊現代』の大量の購入と国会議員に対する無差別配布、組合掲示板への掲出、さらにはJR東海労組合員宅へコピーの郵送などを通じて組織破壊を繰り返している。

さて、このデマキャンペーンに、辞任したJR東労組中央本部役員であった阿部克幸、本間雄治が実名入りで記事に登場し、デッチ上げの上塗り演じている。また、元JR総連委員長だった谷川忍こと福原福太郎が書いた「小説労働組合」なるデッチ上げ本も、あたかも内部暴露本として記事では活用されている。さらに、JR東労組長野地本の組合員は、22名の仲間を暴力事件として告訴した。それと並行して「JR東労組を良くする会」を名乗る組合員らは、JR東労組本部に対し署名や情報開示請求を行った。「内部」からの組織破壊攻撃は、あえてこの時期に熾烈化している。

一方、国家公安委員であるJR東海葛西会長が、安倍自民党新総裁の経済ブレーンとして入閣するのではということもマスコミで報じられた。また、権力の手先としてJR総連破壊の最先頭で指揮を執っていた警視庁元公安二課課長が驚くことに、JR東海関連会社へ天下りしたといわれているのだ（月刊「中央ジャーナル」）。

これらは全てが統一司令部のもと、軌を一にしての策動であり、明らかにJR総連、東労組の組織破壊を狙った攻撃である。安倍自民党新総裁の掲げる憲法改悪＝戦争体制の貫徹のためには、平和を守り、人間らしく労働者らしく生きるために闘うJR総連・東労組が障害となるからである。これを許せば、間違いなく日本はいつか来た道に逆戻りすることになる。

私たちは、このようなデマキャンペーンなどを活用しての一切の組織破壊を断じて許さない。私たちは、平和と人間性、労働者の利益を守るためにこのような攻撃を跳ね返し、額に汗し働く者の未来のために奮闘する。

2006年9月22日
JR東海労働組合中央本部